

まちで、みんなて認知症をつつむ

大牟田市認知症ケアコミュニティ推進事業

～多職種協働・地域協働を生み出そう！～

平成25年10月17日

大牟田市

福岡県大牟田市の概況

～やさしさとエネルギーあふれるまち・おおむた～



かつては炭鉱のまち
(平成9年三池炭鉱閉山)
今、大牟田は
人にやさしいまちへ



●大牟田市の人口

約210,000人 ⇒ **約123,000人**
(1960年) (2013年)

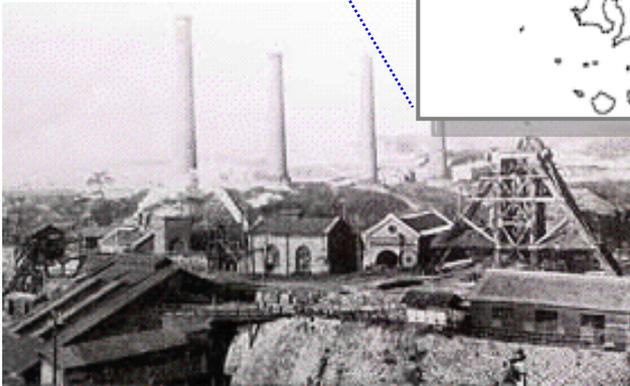
●高齢者数 38,803人

高齢化率 31.6% (2013年10月)
31.1% (2013年4月)
30.6% (2012年10月)

●全世帯数 57,473戸

●高齢者のいる世帯

28,488戸(49.6%)
高齢者単身世帯数
12,702戸(22.1%)
(2013年4月)



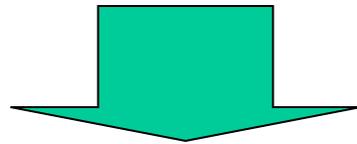
大正時代の七浦坑



宮原坑 (重要文化財)

平成12年4月 介護保険制度スタート

しかし、介護保険制度開始にあたっては、「制度あってサービスなし」「サービスの質は大丈夫か」といった疑問もあった。



「介護保険制度をより良いものにしていくためには、事業者と一緒に全体サービスの質を高めなければならない」

多職種協働による制度の運用とサービスの質の向上が必要

■大牟田市介護サービス事業者協議会

介護サービス事業者の資質の向上、事業者間のネットワーク化による円滑なサービス提供、利用者の立場に立った質の高い介護サービスの研究・実施を目的として、平成12年3月に設立された組織です。**認知症ライフサポート研究会**やホームヘルパー研究会、小規模多機能連絡会といった部会により、様々なサービスの質の向上に取り組んでいます。

(平成24年3月末会員数：事業者会員80法人260事業所)

■大牟田市介護支援専門員連絡協議会

介護支援専門員の資質の向上とネットワーク化により、自立支援を基本とした介護支援業務の円滑な実施に資することを目的として、平成11年12月に設立された組織です。対人援助専門職としての専門的知識及び技術の向上を図るための研修事業などに取り組んでいます。

(平成24年3月末会員数：事業所会員45事業所、個人会員294人)

認知症の人とともに暮らす町づくりの原点は・・・

平成13年11月～大牟田市認知症ライフサポート研究会 の発足

平成13年11月、大牟田市介護サービス事業者協議会の専門部会として認知症ライフサポート研究会が発足。

その出発点は、いつでも、どこにいても、誰といても自分らしく、幸福に暮して欲しいという願いだった。だから、自分の施設だけ良くてもだめ！

【基本理念】

「認知症の人が、ひとりの個人として尊重され、その人らしく地域で暮らせるよう、

1. ノーマリゼーションの視点
2. 人権の尊重、個人の尊厳
3. 人生の継続性、QOLの向上

をキーワードに、地域で支える仕組みづくり、サービスの向上を図っていく」

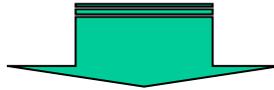
- ・構成メンバー：市内の介護事業所に勤務する職員（専門職）9名の運営委員からスタート、現在の運営委員31名、会員約240名
- ・事務局：大牟田市 保健福祉部 長寿社会推進課



地域認知症ケアコミュニティ推進事業へ

H14年度～ 地域認知症ケアコミュニティ推進事業

認知症の人の理解が深まり、地域全体で支えるしくみをつくり、
認知症になっても、誰もが住み慣れた家や地域で、
安心して豊かに暮らし続けることができる「まちづくり」



認知症ケア研究会(事業所)と行政のパートナーシップのスタート

- ◆当事者や家族、介護現場の実態から見えた問題提起
それらを吸い上げ、地域全体の実践課題にデザインアップ
- ◆地域認知症ケアコミュニティ推進事業として推進

大牟田市介護サービス事業者協議会へ事業委託

→認知症ライフサポート研究会が主管

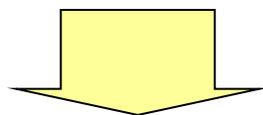
多職種協働、多分野協働、多世代・地域協働の場や機会、スタイルの創造



介護保険事業計画や地域福祉計画に成果と実践課題を反映させながら、
認知症をきっかけに、子どもも障害を抱える人も、高齢者も、全ての人が支えあえる
「まちづくり」へ。地域福祉の再構築。新しいコミュニティの創造。

認知症介護に関わる実態調査(平成14年度)

地域で認知症の人を支える意識やしくみが必要ですか？



地域づくりの提言、キーワード → 活動の基盤

- ☆向こう三軒両隣、隣組、小学校区単位の身近なネットワークの構築
- ☆公民館、民生委員の機能の復活と地域資源の活用
- ☆認知症を隠さず、恥じず、見守り、支える地域全体の意識向上
- ☆行政と地域の連携、推進者の育成・配置、介護現場の質の向上、いつでも相談できるサポートセンターの設置
- ☆子供のときから学ぶ、触れる機会をつくる
- ☆家族への支援、家族介護の負担の軽減

大牟田市・地域認知症ケアコミュニティ推進事業 取組みの経過

重点	主な取組	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
当事者・住民の視点・力の重視・協働	認知症介護実態調査	全世帯									
	日曜茶話会(駛馬南)										
	子供たちと学ぶ 認知症「絵本教室」				1校					全校区	
	ほっと安心(徘徊) ネットワーク				模擬訓練			メール登録			周辺市との 広域ネット ワーク
	認知症介護家族の 「つどい・語らう会」										
	本人支援「ぼやき・つぶやき・元気になる会」										
核となる人材・チームの育成・地域への配置	認知症コーディネーター 一養成研修	1期生 9人									9期生 計85人
	物忘れ予防相談検診										
	地域認知症サポート チーム										医師+コーディネーター+包括
地域とともにある拠点づくりと活きたネットワークづくり	地域の小規模多機能 サービス拠点づくり										
	介護予防拠点併設										
	地域認知症サポート 体制										

GH 13ヶ所
小規模 0ヶ所

GH 15ヶ所
小規模24ヶ所

0ヶ所

40ヶ所

当事者中心の
三層の体制

大牟田市ほっと・安心(徘徊)ネットワーク

徘徊模擬訓練

はやめ南人情ネットワークから
全校区へ



徘徊がノーではなく

安心して
徘徊できる町へ



大牟田から
全国へ



大牟田地区高齢者等SOSネットワーク

電話連絡(事案発生)

大牟田警察署

捜索願

家族等

FAX配信

FAX配信

大牟田市長寿社会推進課

大牟田市消防本部

県土整備事務所

みやま市役所介護健康課

大牟田郵便局

三池郵便局

JANAみなみ筑後(大牟田地区)

はやめ南人情ネットワーク

大牟田タクシー協会(富士タクシー)

西鉄バス大牟田

JR大牟田駅

西鉄柳川管理駅

にしけい

大牟田ガス

大牟田薬剤師会

愛情ねっと(メール配信システム)

大牟田市長寿社会推進課

生活支援ネットワーク

FAX又はメール配信

介護支援専門員連絡協議会
介護サービス事業者協議会

地域包括支援センター
介護予防・相談センター

校区民生委員・児童委員会

大牟田市社会福祉協議会
大牟田市障害者協議会
大牟田医師会・歯科医師会
大牟田薬剤師会（相談薬局）

商店街組合など（今後の目標）

地域支援ネットワーク

FAX又はメール配信

介護予防拠点・地域交流施設

校区内ネットワーク

民生委員・児童委員

町内公民館長・福祉委員
校区社会福祉協議会
老人クラブ・いきいきクラブ
商店・学校・PTA・交番
など

FAX又は電話

ほっと・安心(徘徊)ネットワーク 情報提供シート

(24年 7月 26日 10時 00分 発信)

〔所在不明者情報〕

氏名： 大牟田 一郎 年齢： 96 歳 性別： 男

住所： 大牟田市有明町

所在不明発覚時の時間（届出）： 7月 26日 09時 30分 分頃

服装：	上	緑色のジャンパー（フード付き） ハイネックシャツ（色不明）		
	下	Gパン		
	履物	運動靴（紺色の線入り）		
	持ち物	セカンドバッグ		
	その他			

身体的特徴：	身長	155 cm	体重	50 kg	
	体格	やせ型			
	髪型	頭頂部がはげている			
	その他	眼鏡（上部が黒縁）			

認知症の有無： 有（ 軽度 ）
徘徊歴の有無： 有（ 保護された場所

不明前の様子

特に問題はなかった

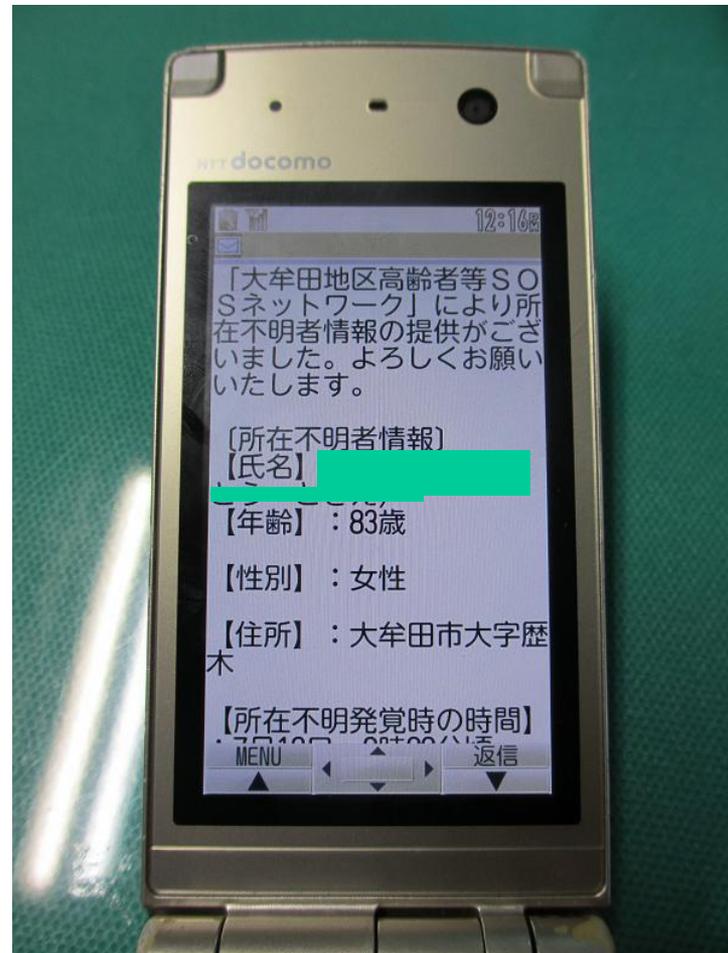
その他（本人がよく通っていた場所や実家等）

〇〇クリニック（白川12-34）

情報提供同意の有無： （ 有 ）

消防署へのメール発信依頼： （ 不要 ）

愛情ねっと (携帯へのメール送信)



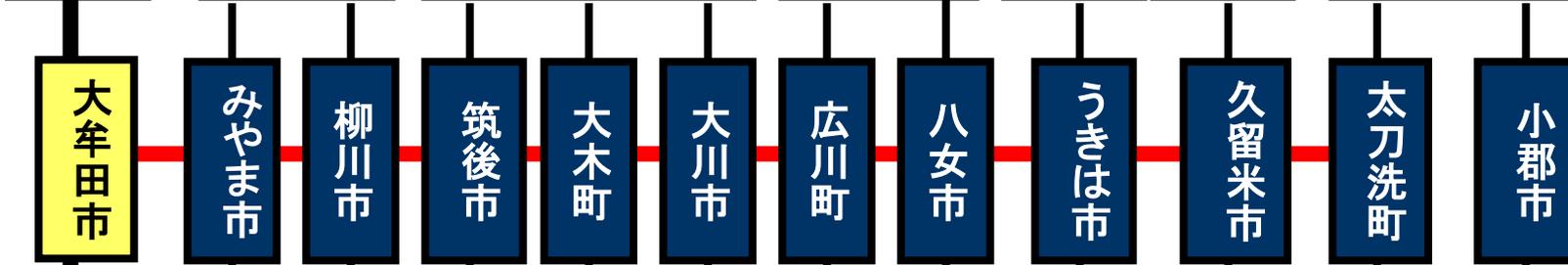
徘徊SOSネットワーク模擬訓練 実施結果

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
模擬訓練参加者	311	612	881	898	1,865	1,717
当日のスタッフ	142	213	445	343	142	151
訓練参加者合計	453	825	1,326	1,241	2,007	1,868
徘徊役の人数	15	34	82	80	1	47
徘徊役に声をかけた人数	97	333	1,126	556	3	886
模擬訓練参加校区	7	9	18	21	(全校区) 22	22
他都市からの視察	21	18	136	131	115	147

(人)

筑後地域高齢者等SOSネットワーク図

情報提供
シート(FAX)



各市町村の実情に応じた自治体内のネットワークの形成

- 大牟田市高齢者等SOSネット**
- 大牟田市役所 長寿社会推進課 ☎41-2662
 - 大牟田市消防本部 ☎53-7460
 - 県土整備事務所 ☎41-5120
 - 大牟田郵便局 ☎53-1210
 - 三池郵便局 ☎52-4194
 - 大牟田タクシー協会 (白石タクシー) ☎52-3865
 - 西鉄バス大牟田 ☎53-8139
 - JR大牟田駅 ☎56-2986
 - 西鉄柳川管理駅 ☎72-2810
 - にしけい(旧西日本警備保障) ☎56-6286
 - その他

生活支援ネットワーク

- 地域包括支援センター
- 介護予防・相談センター
- 介護支援専門員連絡協議会
- 介護サービス事業者協議会
- 大牟田市社会福祉協議会
- 大牟田市障害者協議会
- 大牟田医師会・歯科医師会
- 大牟田薬剤師会(相談薬局)
- 大牟田全市商店連合会
- 中心地区商店街連絡協議会
- ゆめタウン大牟田 など

地域(校区用)ネットワーク

- 介護予防拠点
- 地域交流施設
- 校区内ネットワーク
町内公民館長・福祉委員・民生委員・児童委員・老人クラブ・いきいきクラブ・商店・学校・PTA・交番 など

徘徊模擬訓練のこれまでの経過

平成16年 駿馬南校区で初めて開催する

平成19年 市内全域へ広がる ⇒ 地域の取り組みは7校区へ

○福岡県市長会南ブロックにおいて、福岡県南の市町村で広域連携に向けた取り組みを進めることを提案

平成20年 模擬訓練に向けて認知症の啓発を強化

- 認知症サポーター講座を職域・小地域で開催
- 筑後田園都市推進評議会(福岡県)が主体となって広域ネットワークの整備に取り組むことを確認

平成21年 地域の取り組みが18校区に広がる

平成22年までには、全ての校区が取り組みを実施

平成23年 徘徊模擬訓練を初めて平日に開催

平成24年 福岡県南12市町による「ちくご高齢者等SOSネットワーク」の運用開始(5月)及び熊本県北部(荒尾・南関・長洲)との連携の開始(3月) ⇒ 広域連携がスタート

訓練に向けた取り組み

①校区実行委員会の設立

声かけ訓練や情報伝達網の再整備、認知症サポーター養成講座など必要となる取り組みについては、各校区それぞれにおいて検討を進め、訓練当日に先立つ準備として各校区で事前に実施する。

実行委員会メンバー（校区によってメンバーは異なる）

- 民生委員・児童委員協議会
- 校区町内公民館連絡協議会
- 校区社会福祉協議会
- 地域交流施設・地域包括支援センター
- 認知症ライフサポート研究会運営委員
- 大牟田市長寿社会推進課

校区実行委員会反省会の開催

- ◎訓練実施にあたり、各校区実行委員会はこれまでの取り組み成果や抱える課題を把握し、取り組む訓練内容に応じて訓練目標を設定する。
- ◎訓練終了後は、把握した訓練成果について校区実行委員会内で共有し、課題の抽出や今後の取り組みの参考とする。

【参加者の声】

- メール機能を最大限生かしつつ、電話連絡の効果を最大限に発揮できるような仕組みづくりをする必要がある。
- 検索時にチーム、時間、検索範囲を決めて行動開始したため、むやみやたらという感じではなく、動きやすかった。
- 回覧板・広報誌で周知は行われているが、訓練を繰り返すことで住民の認知度が上がると思う。(第1発見者は、一般の方だった。)
- 徘徊模擬訓練や認知症に対する興味・関心不足故に「訓練のための訓練」になっているのではないだろうか？
- このような訓練を行うことで、参加者が日常生活をしながら近隣への助け合いの気持ちが深まるのではなかろうかと感じた
- 訓練が目的ではなく、徘徊があったときにどうするかという視点でのシステム作りが大切。



介護予防拠点・地域交流施設と

小規模多機能型居宅介護の

整備状況

大田
平面図

○介護予防拠点・地域交流施設……40

☀小規模多機能型居宅介護……24





◆「地域の絆」を支え合う仕組みが必要

◆「地域の絆」とは、いきいきと暮らせる環境を整えること

◆新しいコミュニティづくり
～小学校区を生活の単位と考える

◆公的なサービスでは対応が限定的

◆地域で暮らす認知症ケアと多世代交流

地域交流施設によるまちづくり事例集

平成 20 年 3 月
大牟田市

<http://www.city.omuta.lg.jp/shisei/jouhouka/homepage/2009-0619-1056-75.html>

小規模多機能型居宅介護事業所と併設した地域の交流拠点の設置(大牟田市)

- 通いを中心に、訪問や泊まりのサービスを提供する小規模多機能型居宅介護に、介護予防拠点や地域交流施設の併設を義務付け、健康づくり、閉じこもり防止、世代間交流などの介護予防事業を行うとともに、地域の集まり場、茶のみ場を提供し、ボランティアも含めた地域住民同士の交流拠点となっている。
- 平成25年3月末現在、小規模多機能型居宅介護事業を行っている24事業所に設置。

介護予防拠点・地域交流施設を併設する

～地域で暮らし続けることを目的に設置～

(地域支援事業の受け皿として活用を想定)



場の提供だけでは不十分!そこに人と人を結ぶコーディネーターが必要である。

小規模やGHに併設する地域交流施設には、**認知症コーディネーター**を配置し、地域まじづかいを推進する。

◆地域交流施設の使い方 ～例～

- 開設時間: 毎週月曜日～金曜日(午前10時～午後4時)
- 管理体制: 職員1名を配置(※将来は地域住民による自主運営)
- 利用状況: 主に介護予防(健康づくり)や趣味活動に利用
- 囲碁クラブ、脳の健康予防教室、そよかぜ学童、陶芸教室など

ご近所の方によるお茶会



ペン習字教室

自治会長さん



自称:地域オンブズマン
を語るおばちゃん



「ひらばるの家」運営推進会議

地域まちづくりのツールとして活用

家族会代表

校区福祉委員さん

民生・児童委員さん

近所の病院職員

利用者代表

家族会代表

絵画を教える隣の
おっちゃん

管理者

地域包括支援
センター

オブザーバー

市役所



はやめ南人情ネットワーク

～地域痴呆ケアコミュニティ日曜茶話会～

(当時)

平成15年10月5日



老人クラブ

民生委員

在介・施設

公民館

小学校

痴呆ケア研究会

グループホーム

居宅介護支援事業所

タクシー

利用者

大牟田市





地域ふれあいフォーラムinみなと

【テーマ】 認知症キャンペーン

- 地域の人たちが、認知症のことを理解して気軽に声かけあえる関係をつくるのが大切ではないか！ 今後は、小さな公民館単位でフォーラムを開催できるよう努力したいと思います。



地域ふれあいフォーラムinぎんすい

【テーマ】 認知症の人を支える地域の力

- 日頃、困っていることや地域でどんな人が生活しているか等、様々な意見が共有できてよかった。また、お互いの顔の見える関係をつくれてよかった。認知症の人のことにかかわらず、隣近所の人々がどのように困っているか、「知ること」が重要であると思う。



地域ふれあいフォーラムinしらかわ

【テーマ】 とんとんとんからりと隣組

- 今後、年をとり自分の思うような生活が送れなくなる日が必ずくる。そうなった時、お隣さんは気に留めてくれるだろうか？ フォーラムのテーマの「とんとんとんからりと隣組」のようなつきあいができるように地域で取り組んでいきたい。



地域ふれあいフォーラムinくらなが

【テーマ】 地域の力を見直そう！

- 地域の人たちが集まり、いろいろな意見を出し合う機会を設けてられたのは、とても有意義だった。
- グループワークでの意見を参考に、今後も地道に地域のネットワーク活動のためにみんなで努力していきたいと思います。

地域認知症サポートチーム

【目的・役割】

1. 早期診断と早期からの本人・家族支援による初期支援の向上
2. 困難事例の病態像のアセスメントや医療・ケアの調整及び介護者への助言によるBPSDの防止と家族介護負担の軽減
3. 若年認知症の本人及び家族への継続的な支援調整
4. 地域包括支援の充実
5. 医療連携の促進



専門医または相談医
4名体制



認知症コーディネーター
(スーパーバイザー)



認知症コーディネーター



11名

大牟田市の地域認知症サポート体制

- 4つの地域包括支援センターの支援機関として基幹的なサポートチームを設置し、認知症コーディネーターが認知症専門医と連携して困難事例や特別なサポートが必要なケースを中心に、BPSD等への適切な助言や本人・家族への支援をコーディネートしていく仕組みを構想。
- サブチームは、ケースに応じて、基幹的なサポートチームから認知症専門医と認知症コーディネーターが選定され支援に対応する。

地域認知症サポートチーム

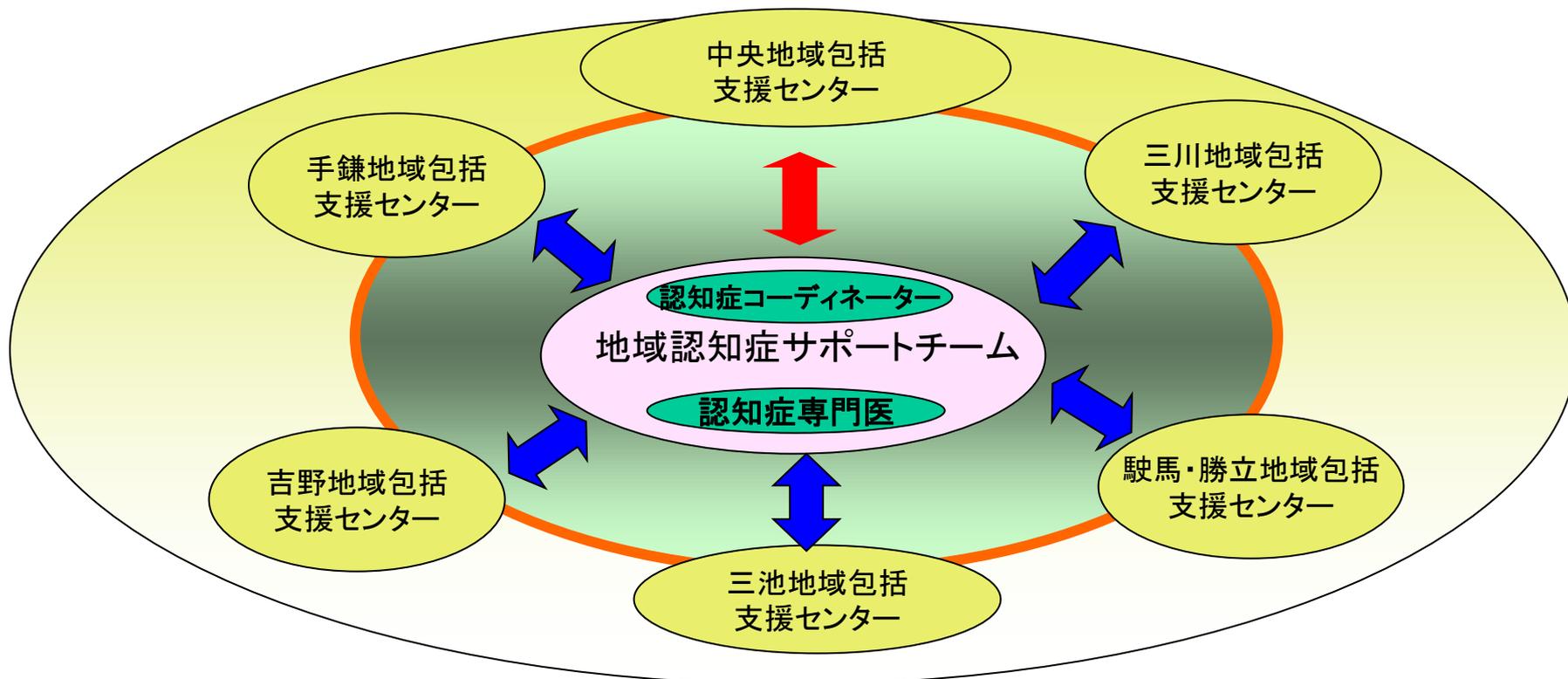
専門医又は相談医 4名体制

認知症コーディネーター 6名体制

認知症コーディネーター

現在76名研修修了(平成15年から実施)

受講期間 毎月2日×2年間



大牟田独自の地域認知症サポート体制(3つの面づくり)

地域住民(公民館・校区社協・老人クラブ等)
地域ネットワーク

地域で支援する面

民生委員
福祉委員

個々の支援チームをサポートする面

個別的な支援の面

地域包括支援センター

介護サービス事業者

徘徊SOS
ネットワーク

地域認知症
サポートチーム

主治医
医療機関

本人

(専門医+認知症コーディネーター)

ケアマネージャー

認知症医療疾患センター

家族

認知症サポーター
キャラバンメイト
ボランティア

あんしん介護相談員

もの忘れ相談医(13名)

小中学生
サポーター

社会福祉協議会
在宅介護者の会

本人交流会
認知症予防教室「ほのぼの会」
家族の集い・語らう会

認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式とライフサポートワーク

大牟田市地域認知症サポートチーム

メンバー構成

- ・専門医(神経内科・精神科・老年内科:4名)
- ・介護・看護職(認知症コーディネーター:6名)
- ・認知症連携担当者(地域包括支援センター:2名)

役割

- ・いわゆる困難事例へのスーパーバイズ
FTD, 若年性, 高度BPSD, 受診拒否, 自動車運転
- ・かかりつけ医との医療連携
- ・認知症何でも相談窓口(週一回、於:大牟田市保健所)
- ・介護サービス事業者へのアドバイス、指導、連携
- ・事例検討会(月一回)
- ・もの忘れ相談検診、予防教室の結果解析
- ・予防教室参加者のフォローアップ
- ・本人交流会, 家族交流会のコーディネート
- ・啓発活動、予防教室の活動立案、資源マップ

定例カンファレンス

- 日時：毎月第4月曜日 18:30～20:00
（平成22年7月～開始，計20回開催）
- 場所：大牟田市役所 北別館第1会議室
- 参加者：チームメンバー（認知症コーディネーター、専門医）
かかりつけ医，もの忘れ相談医
医療機関（地域医療連携室職員）
事例提供者（ケアマネジャー、介護サービス事業者）
地域包括支援センター・行政職員 等
- 内容：1回2事例程度、ミニレクチャー等
認知症連携担当者に連絡が入った事例に対して、必要に応じてチームメンバーが直接的・間接的にスーパーバイズを行う

地域認知症ケアコミュニティ推進事業<<ビジョン>>

認知症知っていて当たり前まち(啓発・絵本教室)
間違って声かけても笑い合えるまち(徘徊SOSネットワーク)

地域認知症サポートチームの役割

認知症コーディネーターの役割

地域を基盤
に実践

- ・支援困難事例への介入・助言(在宅/施設)
- ・かかりつけ医、認知症医療センターとの連携
- ・認知症何でも相談窓口
- ・定例カンファレンスへの参加
- ・もの忘れ予防・相談検診、予防教室への従事
- ・予防教室参加者のフォローアップ
- ・本人交流会/家族交流会のコーディネート
- ・認知症コーディネーター養成研修の企画・運営
- ・市民後見人の活動支援
- ・啓発活動、資源マップ等

コーディネーターへの
STEP

- ①フォローアップ研修
- ②定例カンファレンス
- ③運営委員

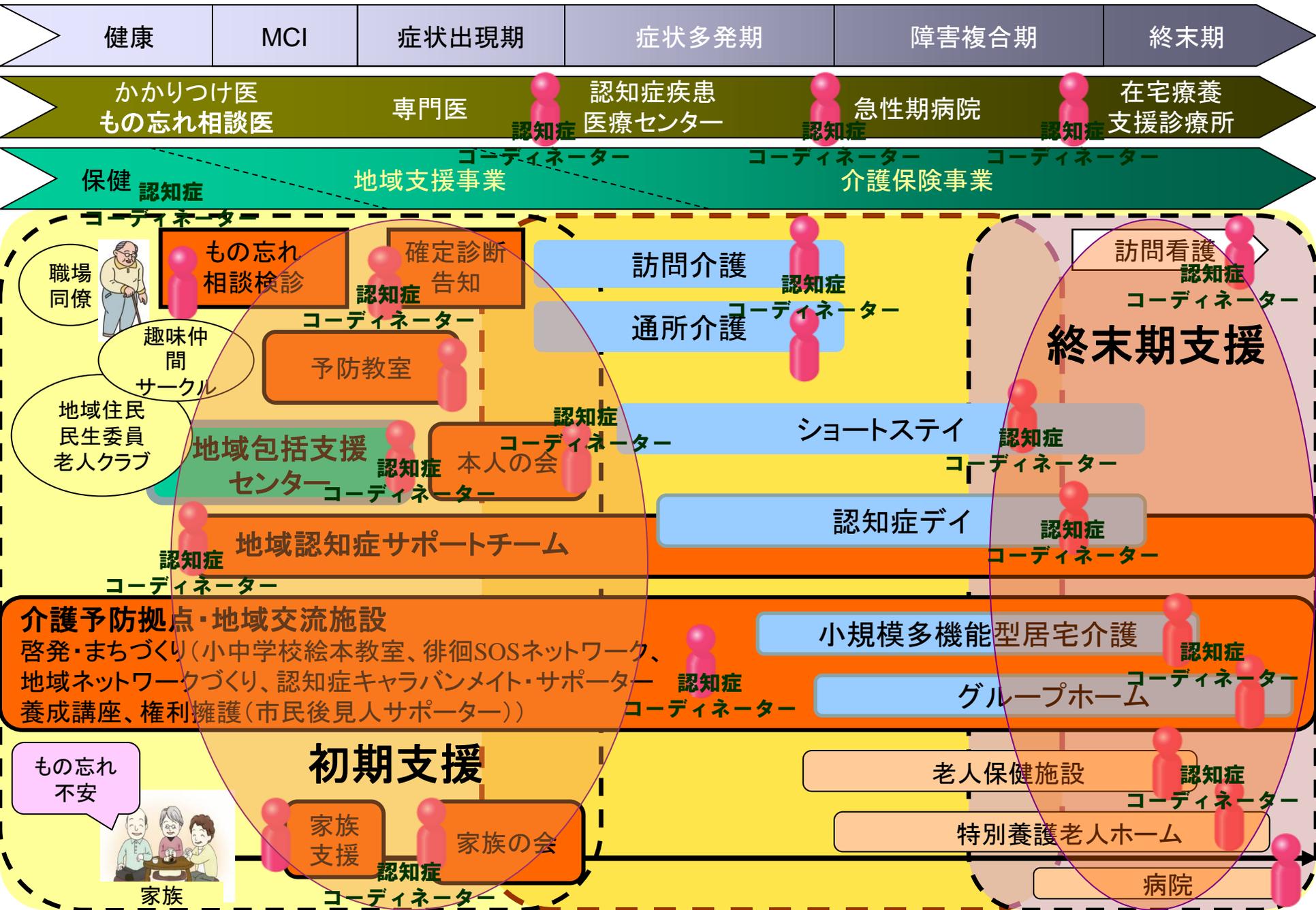
事業所内で
実践

- ④ライフサポートワークとまちづくりの牽引
- ③課題分析と適切な医療とケアの支援
- ②アドボカシーの徹底理解と日々のアドボケートの実践
- ①パーソンセンタードケアの理解、理念を明確にもつ

認知症コーディネーター養成研修のねらい

- ①早期診断から終末期まで尊厳を保ち、地域とつながり続けるための協働の関係づくりを推進していく
- ②医療と介護の両面から多角的に課題を分析し、助言・指導ができる

大牟田地域認知症ケアコミュニティ推進事業～支援体制の目標



成果
小学校校区を
基盤にした
支援の面づくり

地区公民館
地域包括
支援センター

もの忘れ検診



地域交流施設

認知症予防教室
ほのぼの会

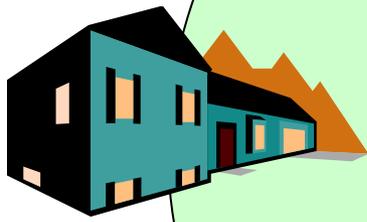
グループホーム
カレーの店

はやめ南人情ネットワーク
徘徊SOSネットワーク
認知症サポーター講座

徘徊模擬
訓練

ケアマネジャー

障害児(者)の受入れ



主治医・医療機関
介護保険サービス

住み慣れた家



小規模多機能ホーム
運営推進会議

中学校小学校
幼稚園
子供たちとの交流



絵本教室



本人交流会
家族支援の集い

中学生との交流
「ふあみ会」

若年認知症の社会参加活



グループホーム
認知症専用デイ

ケア現場や地域で、認知症の人の尊厳を支え、
本人や家族を中心に地域づくりを推進していく人材

「認知症コーディネーター」養成研修

平成15年度～



履修期間2年間／計408時間(座学と実践学習、課題実習等)

到達目標

1. パーソンセンタードケアの理解と理念の醸成
2. 権利擁護の徹底理解と日々のアドボケート
3. 課題分析と適切な医療とケア・生活支援
4. 協働のまちづくりの推進

この9年間、常に
実践課題にそって
柔軟に修正、改善

履修が修了条件ではなく、共通理念と協働できる人材かが条件

わがまちの認知症コーディネーター

修了生の
現在！

- ◎地域包括支援センターへ
- ◎小規模多機能サービス拠点(宅老所)へ
- ◎ユニットケアの推進者へ
- ◎ケアマネジメントの推進者へ

平成18年度から

小規模多機能サービス拠点は、単なる介護サービス施設ではない。
認知症と共生しながらまちづくりを進めていく地域の拠点であり、認知症コーディネーターがその役割を担う。
(地域のまちづくりコーディネーター)

- ◎小規模多機能型居宅介護の管理者には受講義務！
- ◎急性期病院に認知症ケアの理念と視点を！
- ◎地域包括支援センターには完全配置を！

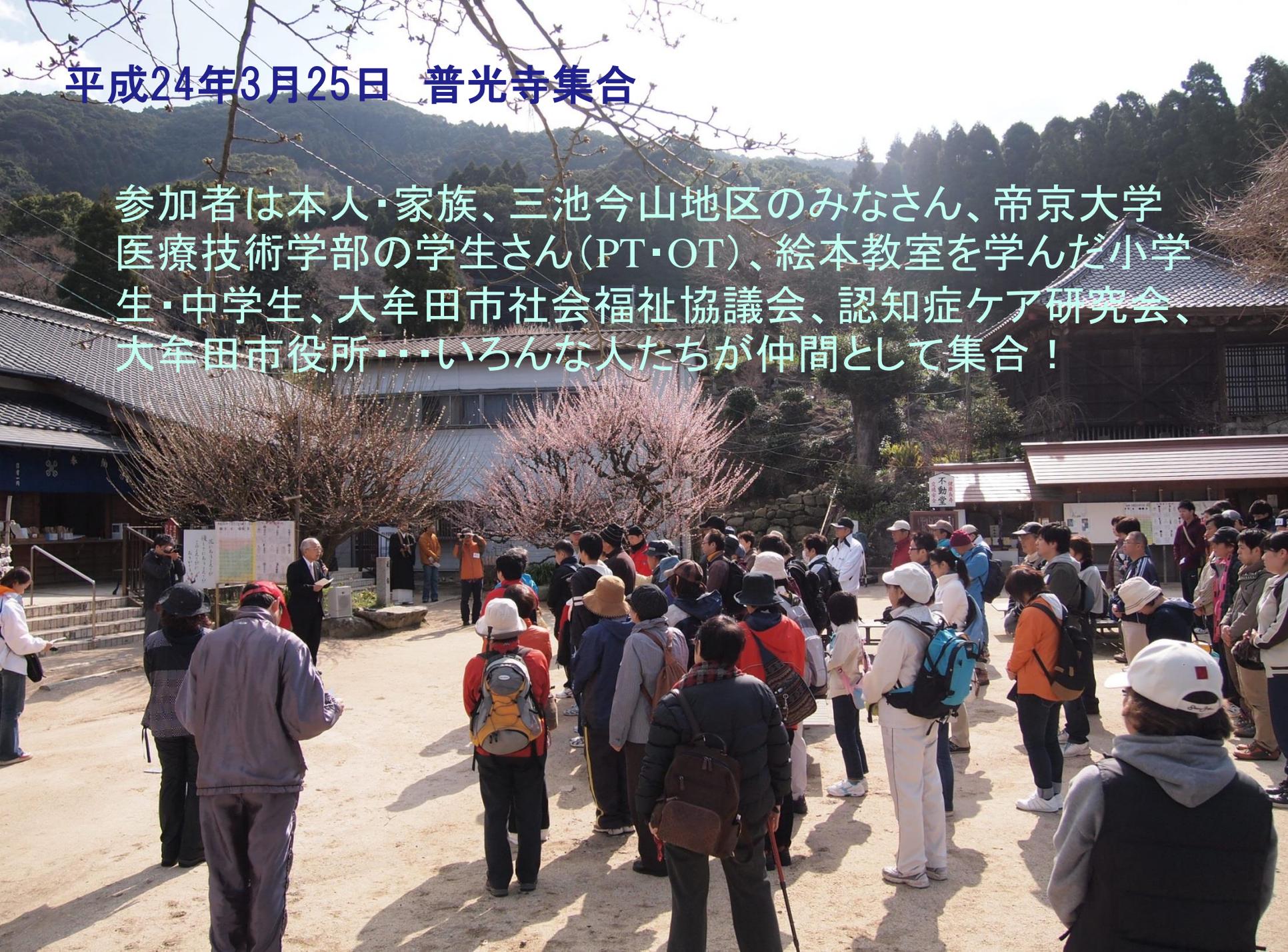
本人ネットワーク支援
「ぼやき、つぶやき、元気になる会」



大牟田市地域認知症ケアコミュニティ推進事業
若年認知症フレンドシップキャンペーン

平成24年3月25日 普光寺集合

参加者は本人・家族、三池今山地区のみなさん、帝京大学医療技術学部の学生さん(PT・OT)、絵本教室を学んだ小学生・中学生、大牟田市社会福祉協議会、認知症ケア研究会、大牟田市役所・・・いろいろな人たちが仲間として集合！



この病気になってから希望なんてありませんでした。商売をしていたので人と話をするのが好きだったのに、誰とも話したくない、外に出たくなくなりました。今日だって直前までは山登りやめようと思っていました。



だけど開会式で同じ仲間と一緒にいて、登ってみようと思いました。いろんな人たちと登っていて、私の認知症は私の中の一部で、私は私なんだと思いました。今日、私は希望を持つことができました。そしてこれからも。

誰もが支えあう地域を目指して

認知症はあくまで“きっかけ”

○絵本教室で子供たちに伝えたいこと

- ・高齢者を敬う気持ち
- ・ともに助け合い支え合う地域社会の大切さ

○徘徊模擬訓練をとおして目指すこと

- ・市民へ認知症理解を広げること
- ・地域コミュニティの再構築

多職種協働、世代間交流、地域協働のまちづくりの推進

Heart is always living.

～心は いつだって 生きている～



Thank you for your attention!

健康づくりフォーラムinしらかわ

～あなたが主役の健康づくり～

